

1 教育目標（目指す生徒像含む）

- ① 健康で気力のある生徒を育成する。
- ② 学力豊かで創造力のある生徒を育成する。
- ③ 勤労を尊び責任感のある生徒を育成する。
- ④ 国際感覚に秀で思いやりのある生徒を育成する。

【目指す生徒像】

- | | |
|-----------------|------------------|
| ① 気力あふれるたくましい生徒 | ② 自ら学び考える生徒 |
| ③ 進んで仕事をする生徒 | ④ 豊かな心と思いやりのある生徒 |

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

21世紀の知識基盤社会の時代を生きる人間を育てるに当たり、生徒の自己教育力を高める創造的な学校経営の推進を柱として、生徒の確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育み、生徒が自分の未来を切り拓く力を育てる教育を実践する。そのために、教職員は同僚性を十分に発揮し、生徒の育ちのプロセスを的確にとらえ、価値のある称賛と励ましにより「自己肯定感」を育成する。

また、「生徒が生きる」教育活動を推進するため、学校・保護者・地域の連携を強化し、「教師が生きる」、「保護者が生きる」、「地域が生きる」学校づくりを目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

（1）確かな学力の定着

・授業時数の確保と学習指導要領に基づく「本時のねらい」を明確に示した授業の展開、個に応じた指導の工夫、さらには指導と評価の一体化を推進することにより、基礎的・基本的な知識・技能や思考力・判断力・表現力等を育成し、確かな学力の定着を図る。

（2）心の教育の推進

○心に響く道徳の授業、読書活動、あいさつ運動、人権教育、国際理解教育、福祉教育等の充実を図り、教育活動全体を通して、思いやりにあふれた心の教育を推進する。

（3）生徒指導の充実

- ・一人一人の家庭的な背景を踏まえながら、生徒とのコミュニケーションを重視し、信頼関係の構築に努める。
- 自律の精神を培うために、「育てる生徒指導」（自己教育力・自己肯定感の育成）の推進を図る。
- 問題行動の未然防止、早期発見、解決に向けて、家庭や他機関との連携を図りながら組織的に取り組む。

（4）健康・体力の向上

- 食育の充実と健康的な生活を送るための指導の充実を図る。
- ・新体力テストの結果を活用し、進んで運動に取り組む態度の育成と体力の向上を図る。

（5）特別支援教育と教育相談の充実

- ・生徒一人一人のニーズに対応した教育支援の充実が図れるよう、校内支援委員会の機能を生かして組織的に取り組む。
- ・不登校の防止や解消、生徒一人一人の悩みの解消を目指し、明るい学校生活を実現するために、教育相談の意図的・計画的な実施と教職員のスキルの向上を図る。

（6）家庭・地域社会との連携と開かれた学校づくりの推進

○地域の教育力を生かし、家庭・地域社会との連携と開かれた学校づくりに努めるとともに、地域に信頼される学校づくりを推進する。

（7）教職員の使命と資質の向上

- ・時代や生徒、保護者のニーズに応えるため、教職員としての使命を深く自覚し、協働体制のもとに各自の特性の発揮と資質の向上に努める。
- ・働き方改革を推進して業務の適正化に努め、健康と安全管理に配慮する。

【星が丘地域学校園教育ビジョン】

「未来を見つめ、学び続ける力の育成」～星が丘地域学校園の学校文化を築くことを通して～

4 教育課程編成の方針

学校経営計画 今年度の重点目標「生徒の自己教育力を高める、創造的な学校経営の推進」に則り、教育課程のスリム化・重点化を図って、確実な授業時数と指導に関する研修の機会を確保し、生徒と教職員が見通しとゆとりを持って生活や業務にあたれるよう教育課程を工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

- 生徒の自己教育力を高める，創造的な学校経営の推進－生徒の主体的な活動と自己肯定感を助長するための指導の工夫－
- ・校内の組織的な取組や時間管理への意識を高めるとともに，業務の適正化を図る。

【学習指導】

- 自らの考えを進んで表出し，自己肯定感をもって学ぶ生徒の育成
- ・本時のねらいを共有し，目的をもって学ぶ生徒の育成

【生徒指導】

- 家庭や地域との連携を深め，心豊かで思いやりのある生徒の育成
- 価値のある称賛と励ましを通して，自己肯定感や誇りを持てる生徒の育成

【健康（体力・保健・食・安全）】

- 自己の健康，体力の状況を的確に理解し，進んで健康，体力の向上に励むたくましい生徒の育成
- 食に対して関心を持ち，健康的な食事の在り方を自ら考え，実践できる生徒の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通，Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A 1 生徒は，進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・生徒が主体的に学習に取り組み，深い学びにつながるよう，学習のめあての提示，振り返りの実施 ・教材・教具の工夫，生徒用タブレットの有効活用	B	【達成状況】 教職員 100%，保護者 93.1%，生徒 90.9%とすべて 80%以上を達成している。 【次年度の方針】 学習のめあての提示や興味・関心を高める教材・教具の工夫，生徒用タブレットの活用など，生徒が主体的に学習に取り組める授業の工夫に努め，深い学びにつなげる。また，A I ドリルの積極的活用や I C T 支援員に授業に入ってもらいなどの取組を行う。
	A 2 生徒は，思いやりの心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・他との関わりを多面的・多角的に考える授業の実践 ・「思いやり」を題材にした道徳授業の実践 ・日常生活での思いやりの行動の推奨	B	【達成状況】 教職員 88.4%，保護者 88.2%，生徒 89.7%と全て昨年度より高くなっている。 【次年度の方針】 道徳の授業での考え議論する場面において，思いやりについて深く考えさせることを継続して指導する。また，日常生活においても，機会を逃さず，思いやりの言動がとれるような指導支援を継続する。
	A 3 生徒は，きまりやマナーを守って，生活をしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・全職員の共通理解のもとでの継続指導 ・生徒自らが考えるマナーアップの方策を手助けする体制の整備 ・5分前行動・2分前着席の徹底	B	【達成状況】 保護者については，90.9%と宇都宮市の肯定的回答と比しても，ほぼきまりやマナーは守られているとの認識である。しかしながら，まだ改善の余地もありそうなので，次年度につなげたい。 【次年度の方針】 全職員の共通理解のもと，継続指導したい。特に交通マナーについては，交通安全教室や指導を徹底し，生徒個々の意識の高揚を図りたい。

目 指 す 生 徒 の 姿	A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・生徒会を中心としたあいさつ運動の充実 ・登校指導時の教職員によるあいさつ運動の実施 ・先行あいさつの励行（教職員も率先して）	B 【達成状況】 教職員の見方は 86.0%，保護者については 89.6%，生徒も 96.3%と宇都宮市の中学校の平均と同等位の肯定的回答の数値である。昨年度の値よりは向上しているが、コロナ禍もあり、心から大きな声でのあいさつには届いていないと思われる。 【次年度の方針】 前年度にも増してあいさつ運動を継続強化するとともに、社会に出て通用する TPOを意識したあいさつの実践を身に付けさせるよう指導を続けたい。
	A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・学年に応じたキャリア教育の推進 ・学級活動や学校行事、部活動等における指導（目標を設定し、取り組むことにより、生徒に達成感や成就感を味わわせる。）	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答割合が 65.1%とポイントが数値指標より－14.9 と低かった。活動の制限により時間をかけて目標を達成させることが難しかったと思われる。 【次年度の方針】 学校行事などを通して粘り強く目標に取り組めるように支援する。達成可能な細かな目標設定により、達成感や自己有用感につなげる工夫をする。
	A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・家庭科や保健体育科での発達段階に応じた指導 ・外部講師を活用した健康教育の実践 ・各種たよりを通した生徒・保護者への啓発 ・交通安全教室、避難訓練、登下校指導の実施	B 【達成状況】 肯定的回答が生徒 94.1%，教職員 79.1%，保護者 92.4%となっており、概ね目標は達成できている。 【次年度の方針】 ・引き続き、家庭科や保健体育科、給食指導・出前講座等による健康教育をとおして、健康意識の高揚に努める。 ・交通安全教室や避難訓練、登下校指導、日々の安全教育をとおして、安全意識の高揚に努める。
	A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・ボランティア活動への参加 ・働く人に学ぶ授業、宮っ子チャレンジの実施 ・キャリアパスポートの効果的な活用	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答割合が 65.1%とポイントが数値指標より－14.9 と低かった。諸活動の制限により、肯定的回答率が下がったと思われる。 【次年度の方針】 教職員が持続可能な社会の創り手の育成を意識し、キャリアパスポートの使用回数を増やすとともに、保護者にも協力を仰ぐ。宮チャレなどの行事を通して社会に貢献しようとする態度を育成する。
	A 8 生徒は英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・コミュニケーション力を高める学習活動を多く取り入れた英語の授業の実践 ・ALTとの積極的な交流の推進	B 【達成状況】 教職員は 95.3%，生徒は 89.7%と 80%以上を達成している。英語科の授業においては、生徒はALTと積極的にコミュニケーションを図ろうとしていた。 【次年度の方針】 英語科の授業においてのさらなるALTの活用とコミュニケーション能力を高める学習活動を継続し、英会話の自信を高められるよう指導していく。
	A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・「宇都宮学」の学習を中心とし、総合的な学習の時間の指導の充実 ・地域との連携と、その教育力の活用	B 【達成状況】 教職員は、昨年度より 22.1%上昇した。保護者と生徒はいずれも昨年度より上昇したが数値指標には届かなかった。 【次年度の方針】 今年度から導入された「宇都宮学」を中心とした、総合的な学習の時間の指導を通して、生徒が郷土への愛情と誇りをもてるよう継続して指導していく。

目 指 す 生 徒 の 姿	A10 生徒は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・タブレット端末の積極的な活用（授業・学校行事等） ・タブレット端末の効果的な活用例の共有 ・授業での図書室の活用	B 【達成状況】 教職員は 97.7%，保護者は 69.3%，生徒は 88.3%とすべて昨年度より上昇している。また、授業だけでなく学校行事や集会などでも積極的にタブレット端末を活用することができた。 【次年度の方針】 タブレット端末の積極的な活用を継続するとともに、合わせて情報モラルについての指導も継続していく。また、図書室の積極的な活用も継続していく。
	A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・ボランティア活動や学校行事等で高齢者とともに行う活動の推進 ・「高齢者へのいたわり・思いやりの心」を題材にした道徳の授業の実践	B 【達成状況】 肯定的回答は、教職員は 88.4%・保護者 88.2%・生徒 89.7%と高い値ではあるが、宇都宮市の平均値と比べるとやや低い値である。しかし、本校の推移は昨年度よりアップしている。コロナ禍で高齢者を招待する場面やつながりは減っているのは事実であるが、道徳の授業などを通して高齢者との良好な関わり方や思いやりの心を育てる努力は継続した。 【次年度の方針】 次年度は特にボランティア活動や学校行事等で高齢者とともに活動することで、高齢者へのいたわり、思いやりの心などの醸成を図りたい。また、継続的に道徳などの授業でも、題材として「高齢者へのいたわり・思いやりの心」を推奨したい。
	A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・総合的な学習の時間における「持続可能な社会」についての学びの継続 ・「持続可能な社会」につながる活動を意識させての委員会活動の実践	A 【達成状況】 教職員 95.3%，生徒 79.9%と昨年度より上昇している。 【次年度の方針】 総合的な学習の時間において学年の年間指導計画に入れ込み、より一層の充実を図る。また、生徒会の委員会活動において、「持続可能な社会」につながる活動を意識させて実践を行い、学習発表会において発表し、全校での取組に広げ、より充実を図る。
	B1 生徒は、授業や部活動などで一人一人が課題を持って体力の向上に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・昼休みでのボール等を使った運動の促進 ・保健体育の授業や部活動における投力の育成を意識した授業の実践	B 【達成状況】 定的回答が教職員 83.7%，保護者 88.5%，地域住民 100%，生徒 95.2%となっており、目標は達成できている。 【次年度の方針】 授業や部活動等をとおして、体力の向上が達成できたという実感・成就感を味わえる場面を作っていく。
	B2 生徒は、学習の目的やねらいがわかり、自ら進んで考え発言している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・毎時間のねらいの提示 ・生徒に目標や見通しを持たせた授業の展開 ・生徒の発言を大切に扱うとともに、まちがいを恐れずに発言できる学級の雰囲気作り	B 【達成状況】 教職員 81.4%，生徒 85.9%と昨年度より上昇し、80%以上を達成している。 【次年度の方針】 毎時間のねらいの提示やこの授業で育てたい力を意識して指導することにより、生徒に授業の目標や見通しを意識させることを継続する。また、日頃から生徒の発言を大切に扱うとともに、まちがいを恐れずに発言できるような学級の雰囲気作りに努めていく。さらに、タブレット端末を活用した意見交換などを活用し、自分の考えを表出することのできる活動を取り入れる。

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・特別な支援が必要な生徒の個別の支援計画の作成と活用 ・特別支援コーディネーターを中心とした支援体制の確立（かがやきルーム、ステップアップルーム等の特別支援資源の有効活用） ・教育相談部会、校内支援委員会等における情報の共有化と迅速な対応	【達成状況】 肯定的回答は、教職員が 93.0%と昨年度の回答とほぼ同等である。また、市の平均とも同等である。 【次年度の方針】 特別支援学級での支援はもちろんのこと、通常学級における要支援生徒を把握し、SCやMSなどとも連携して情報交換しながら適切な支援体制を構築していく。また、必要に応じてケース会議をもち、全職員が共通理解のもとで支援していく。「かがやきルーム」や「ステップアップルーム」も有効に活用しながら支援していく。また、市とも足並みを揃えるために「手引き」も熟知したい。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・いじめ防止基本方針に基づく指導体制の活性化 ・生徒指導部会を中心とした情報交換と迅速な対応 ・いじめを扱った題材や人権に配慮した道徳の授業の充実 ・「学校生活アンケート」（年間4回）による現状把握といじめ早期発見、早期対応 ・タブレット（クロムブック）の活用	【達成状況】 全般的に宇都宮市の中学校と比べるとやや低い値になっているが、本校としては昨年度よりは徐々に向上している。 【次年度の方針】 1年間を通して、いじめはどんな場合でも絶対に許されないという意識を持たせたい。道徳の題材にもいじめに関するものを多く取り入れる。また、いじめゼロ強調月間に合わせての取組から、生徒の意識が高まるよう指導していく。年間4回実施している「学校生活アンケート」による現状把握といじめ早期発見に次年度も努める。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・生徒一人ひとりにとって、居がいのある学級経営の実践 ・スタンダードダイアリーや教育相談週間を活用し、生徒の悩みごとなどの把握 ・教育相談部会における情報の共有化、支援 ・新たな不登校を生まないための未然防止と「ステップアップルーム」での登校支援の充実	【達成状況】 肯定的回答は、保護者 84.1%、生徒が 91.3%である。宇都宮市の中学校の平均とほぼ同じ値になっていて昨年度より向上している。 【次年度の方針】 生徒一人ひとりが居がいのある学級経営、特に、互いを励まし合える温かい学級作りに努めるとともに、積極的な励ましや称賛の言葉かけをする。また、スタンダードダイアリーや教育相談週間を活用し、生徒の悩みごとなどの把握に努め、解決に向けて支援することで楽しい学校生活を送れるようにする。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・外国人生徒の日本語の力に応じた日本語指導の実践 ・必要に応じた関係諸機関との連携 ・本人・保護者の要望への対応や学校生活に必要な支援の充実	【達成状況】 肯定的回答は、教職員が 93.0%と市の平均値とほぼ同程度の値がでている。 【次年度の方針】 必要に応じて市教育委員会や市教育センター等の関係諸機関と連携しながら本人・保護者の要望に応えたり、学校生活に必要な支援を行ったりしていく。
	A17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・学校行事等における生徒の活躍の場の設定と自発的・自治的活動の積極的な導入 ・生徒会活動の充実 ・あいさつの励行 ・生徒の自己実現に対する教師の適切な支援	【達成状況】 肯定的回答割合が平均 89.4%と昨年度よりも 0.2 ポイント増えた。コロナ禍の中でも、形を変えてでも行事を実施したためと考えられる。 【次年度の方針】 明るく大きな声での挨拶・返事と生徒会行事の充実により学校の活性化を図る。

目指す学校の姿	A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・ねらいを明確に、振り返りを確実に行う授業の実践 ・ICTの効果的な活用 ・習熟度別学習やチームティーチング指導の充実	B 【達成状況】 保護者は 81.4%であるが、生徒は 91.1%と高く、数値指標を達成している。 【次年度の方針】 ねらいを明確にした授業実践に努め、ICTの活用においては各教科の教職員の連携をより一層図り、指導の充実を図る。また、数学科や英語科では、習熟度に応じたきめ細やかな指導の充実に努める。
	A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・「チーム星が丘」の力を最大限に生かせるよう、多様なスタッフとの連携の強化 ・全教職員の共通理解に基づく組織的な対応	A 【達成状況】 教職員の肯定的回答割合が昨年度より 6.6 ポイント上昇し、90.7%となった。教職員が同一方向に力を出し合って取り組んでいるといえる。 【次年度の方針】 管理職のマネジメントのもと、教職員同士の連携を密にし、多様なスタッフの専門性を生かし、協力して指導にあたる体制を整える。
	A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・教職員の意識改革の推進 ・月1回のリフレッシュデーの設定。 ・業務の精選・見直し ・部活動基本方針に基づく効率的な活動と休業日の設定 ・勤務時間管理による長時間勤務の改善とワークライフバランスの見直しの推進	A 【達成状況】 教職員の肯定的回答割合が 51.2%と昨年度より 5.7 ポイント上昇した。ただし、市平均にも届いていない。 【次年度の方針】 管理職自ら「働き方改革」を推進するべく、業務の精選・見直しを行うとともに、教職員一人ひとりが勤務時間の管理に努める。
	A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・地域学校園の全体研修や各部会・分科会の充実 ・小中一貫カリキュラムに関する取組の充実 ・数学科・英語科での乗り入れ授業の実施 ・小中交流あいさつ運動	B 【達成状況】 教職員 93.0、保護者 87.5%、地域住民 100%、生徒 66.9%と生徒の肯定的回答割合が極端に低い。コロナ禍で生徒がかかわる活動がなかったためと思われる。 【次年度の方針】 ・各分科会等における連携を継続する。 ・「小中交流あいさつ運動」、「乗り入れ授業」などの取組が充実するよう、情報交換を密に図っていく。
	A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・地域協議会との連携の強化 ・可能な学校ボランティア活動の実践 ・地域の学習資源を活用した活動の充実 ・地域人材を活用した講演会等の実施	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答割合が 82.4%と昨年度より 2.9 ポイント下がった。コロナ禍で PTA 活動や授業参観などが制限されたためと思われる。 【次年度の方針】 地域に愛される星中生の育成のためにも、地域の教育力を大いに活用する。地域のボランティア活動や行事に、生徒が参加しやすいような環境の整備に努める。
	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・地域・企業と連携した「地域の方々・先輩・専門的な知識を持つ方に学ぶ」授業の実施 ・各種便りや学校HPによる積極的な情報発信 ・「スタンダードダイアリー」を活用しての家庭との連絡 ・地域協議会との連携強化	B 【達成状況】 肯定的回答割合が平均 86.4%と昨年度より 4.1 ポイント上昇した。コロナ禍の中でも、形を変えてでも行事を実施したためと考えられる。 【次年度の方針】 保護者会や三者懇談に加え、各種便りや学校のHPを利用し、積極的に情報を発信し、家庭・地域との連携を密にしていく。

目指す学校の姿	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・日常的な点検と月1回の安全点検の実施 ・自然災害時等の臨時の安全点検の実施 ・各種業者による施設点検 ・修繕箇所への迅速な対応	A	【達成状況】 肯定的回答が教職員 88.4%, 保護者 88.6%, 地域住民 100%となっており、目標は達成できている。 【次年度の方針】 改修工事の進捗状況を保護者・地域住民にできるだけ情報発信していく。
	A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・図書選定委員会を開催しての計画的な図書の整備 ・必要な資料等の市立図書館や地域学校園内の学校からの借用 ・タブレット端末の積極的な活用	A	【達成状況】 肯定的回答割合が、教職員 97.7%, 保護者 69.3%, 生徒 88.3%と昨年度よりも数値が上がっている。 【次年度の方針】 クロムブックやデジタル教科書などを積極的に活用していくとともに、資料の有効活用など、授業に応じた指導の工夫をする。
	B3 教職員は、あいさつや対応が丁寧である。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・教職員自らの先行あいさつの実施 ・相手の立場や気持ちになっての丁寧な対応	B	【達成状況】 保護者の値は昨年度より上昇し、91.0%になっているものの、地域住民の値は昨年度よりは低迷してしまった。 【次年度の方針】 昨年度に引き続きいかなる場面でもあいさつが生活の基本である認識のもとに、あいさつ励行に励みたい。
	B4 教職員は生徒が学び合い認め合う場を数多く設け自己肯定感を高めるなど、指導力の向上に努めている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・指導力向上を目指した研究プロジェクトへの取組の実践 ・生徒相互が学び合い認め合う場の設定	A	【達成状況】 肯定的回答割合の平均 86.7%と昨年度より-5.1 ポイントであった。様々な活動の制限により生徒の学びあう活動の場を多く設定できなかったことが原因と思われる。 【次年度の方針】 生徒相互が意見を出し合える学びあいの場を多く設定し、生徒の自己肯定感を助長するよう指導する。
	B5 教職員は、一貫性・公平性のある生徒指導を基にして、生徒の規範意識及び自己肯定感を高めている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・生徒指導部会等での情報交換等による生徒の的確な把握と早期対応 ・部会記録を回覧するなど共通理解を図ることによる全校体制での公平かつ一貫した生徒指導の実践	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答が 93.0%と昨年に比してほぼ同値、保護者 74.1%と低迷、生徒 87.9%と同値であった。 【次年度の方針】 教育相談部会や生徒指導部会での情報交換を確実にを行い、個々の生徒の状況を的確に把握する。また、昨年度にも増して積極的に称賛や支援を行い自己肯定感の醸成に努め、正しい人権感覚を持って指導に当たる。
本校の特色・課題等	B6 生徒は、総合的な学習等において、自らの課題を設定し、地域をフィールドにした調査研究活動を行っている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・地域をフィールドにした調査研究活動の実践 ・発達の段階に応じた生徒の興味・関心に基づく適切な課題を設定とその追究	B	【達成状況】 教職員 81.4%, 生徒 83.8%と数値指標を達成している。 【次年度の方針】 総合的な学習の時間において各学年の発達段階に配慮した適切なテーマ「地域を知る」「地域に学ぶ」「地域に貢献する」のもと、SDGs の学習を取り入れながら、生徒一人一人の課題に応じた指導支援に努める。
	B7 生徒は、交通ルールを守り、登下校時の安全に努めている。 【数値指標】 肯定的回答 80%	・教職員による月1回の登校指導 ・毎週水曜日の一斉下校時や部活動終了時の下校指導 ・交通安全教室の実施	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答が 62.8%とポイントが数値指標より 17.2 低かった。 【次年度の方針】 年度初めに交通安全教室を行い、教職員による下校指導を継続的に行う。また、生徒が主体的に交通安全について考えられる場を設定するなどして、生徒の安全意識を高めていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- (1) 生徒たちは、新型コロナウイルス感染症の影響でさまざまな学校行事が中止になっている中で、生徒会を中心に趣向を凝らした行事運営に取り組み、学校への帰属意識を高めるなど成果を上げている。
- (2) 保護者による評価では、いじめ対策や思いやりの心の醸成について、他校と比較して肯定的回答の割合が低い。保護者にとってたいへん意識の高い評価項目であり、継続した取組と一層の努力が必要と考える。
- (3) ○小中一貫教育については、コロナ禍により、取組みが不十分になっているが、市平均と比べて肯定的回答の割合が高い。今後も、小中一貫教育について生徒に理解を深めさせ、より身近なものとなるよう指導・支援を行う。
- (4) ○地域学校園の各小学校との連携強化を図りながら、9 か年を見通した指導計画を作成し、星が丘地域学校園教育ビジョン「未来を見つめ、学び続ける力の育成」をめざし、小中一貫教育をさらに推し進める。
- (5) 本校生徒の授業への取組に対して、教職員の肯定的回答の割合が高い。生徒が活発に話し合う学習活動の工夫や積極的な発表等で主体的に授業に臨めるためのICT機器の活用など、教職員一人一人がスキルアップ研修を重ね、授業力の向上を目指す。
- (6) 宇都宮学や持続可能な開発目標(SDGs)の学習に関しては、昨年度に比べかなり認知されてきた、来年度に向けて、本校の総合的な学習の中心分野として、さらに生徒の探求心を高めていきたい。
- (7) 各種便りの積極的な発行や、ホームページの更新に努めるなど、各種広報活動を充実させた。保護者や地域への情報発信にさらに努め、開かれた学校づくりを推進する。
- (8) 地域の方からの評価はたいへん肯定的なものであった。これからも地域の方々に信頼され応援していただける学校づくりを推進する。

6 学校関係者評価

- (1) コロナ禍の中で、学習内容や学習形態に様々な制約がある中、工夫をしながら学習に取り組んでいる。特に総合的な学習の時間における探究的な学習では、かなり細かく調べ学習を行い、発表につなげるなど本校生徒の良さが見受けられる。
- (2) 持続可能な開発目標(SDGs)の学習に関しては、各教科等で環境学習に取り組ませる際、生徒の身近な問題等を可視化させるなどして「持続可能な社会」につなげることを意識させるとよい。
- (3) 生徒の登下校の安全確保という視点からも、交通ルールの順守徹底を推し進めてほしい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- (1) ○星が丘地域学校園教育ビジョンである「**未来を見つめ、学び続ける力の育成**」のために、自己肯定感の高揚をキーワードに学区内小学校との連携をより一層強化し、その実現を目指す。
- (2) 学力の向上については、学習習慣の定着を図る取組を継続させるとともに、ICT機器の十分な活用や、習熟度別学習の効果的な実施など、授業の改善を図る。
- (3) ○地域学校園における各部会の連携を深め、教科学習における小中間での指導法の研究とともに、教育相談や不登校に係る課題等についても、小中一貫教育の中でさらに推し進めていく。
- (4) ○社会性を身に付け、持続可能な社会の創り手の育成を目指し、教科としての道徳を中心に全教育活動の中で実施される道徳教育を意図的・計画的・横断的に行う。さらに、小中9か年の星が丘地域学校園の指導計画に基づいて、道徳的実践力の涵養を図る。
- (5) 健やかな体を育成するために、保健体育の授業を中心に教育課程内及び部活動を通して、健康の維持と体力の向上についての指導を計画的・継続的に行う。
- (6) 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」の項目の肯定的割合を高めるために、業務の精選・見直しを行うとともに、教職員一人ひとりが勤務時間の管理を推し進められるよう努める。